

東播磨の甲虫相(1)*

高橋 寿郎

はじめに

東播磨といわれている地域はどちらかといえばいわゆる播磨平野のこぼれで代表されるような山岳的なものがない地域がその大部分を占める(調査地域内での最高峰は千ヶ峯 1,006mでその他代表的な山として笠形山 939m, 三国岳 855m, 篠ヶ峯 837mなどがあげられる)。

筆者はこの地域内での甲虫類を調べる機会に恵れその地域に生息する甲虫たちの概畧がわかったのではないかと考えられるのでここにそれを発表させて頂くことにした。

何といっても甲虫の種類数は非常に多く調査にしても種々の条件があり筆者が満遍なく調査したわけではなく(大変調査の手薄になっているグループも結構ある)そういった意味からは不充分なまとめになっていると思われるがこの地域での甲虫相の外貌でも知って頂ければ望外の喜びである。

同定についてはいくらか専門の方々に見て頂いたものもあるが大部分が筆者の手によりその点では浅学未熟の者の同定で誤りがあるかも知れず御教示御指摘を頂くことが出来れば幸である。この地域内の多くの文献からの記録も出来るだけとりあげた。この文献についてはあまりにも多いので筆者が別にまとめて出版している“兵庫県産甲虫類に関する文献目録, 1975. 同改定版, 1981. 同追加篇 I, 1984. 同追加篇 II, 1993”(全部で1830篇を収録)を参照して頂きたいと思う。勿論これら文献からの記録は全部本報をまとめるに当たって収録してある。

この調査は1980年代まではほとんど筆者単独の調査が主体であるが1980年代以降は蜂谷幸雄氏の御協力を頂いている。ここに厚くお礼申し上げる。

また前に記したように同定をお願いした先生方を始め多くの方々の御教示, 御援助を頂いている。一々此処に御芳名を記さないが厚く御礼を申しあげさせて頂く。

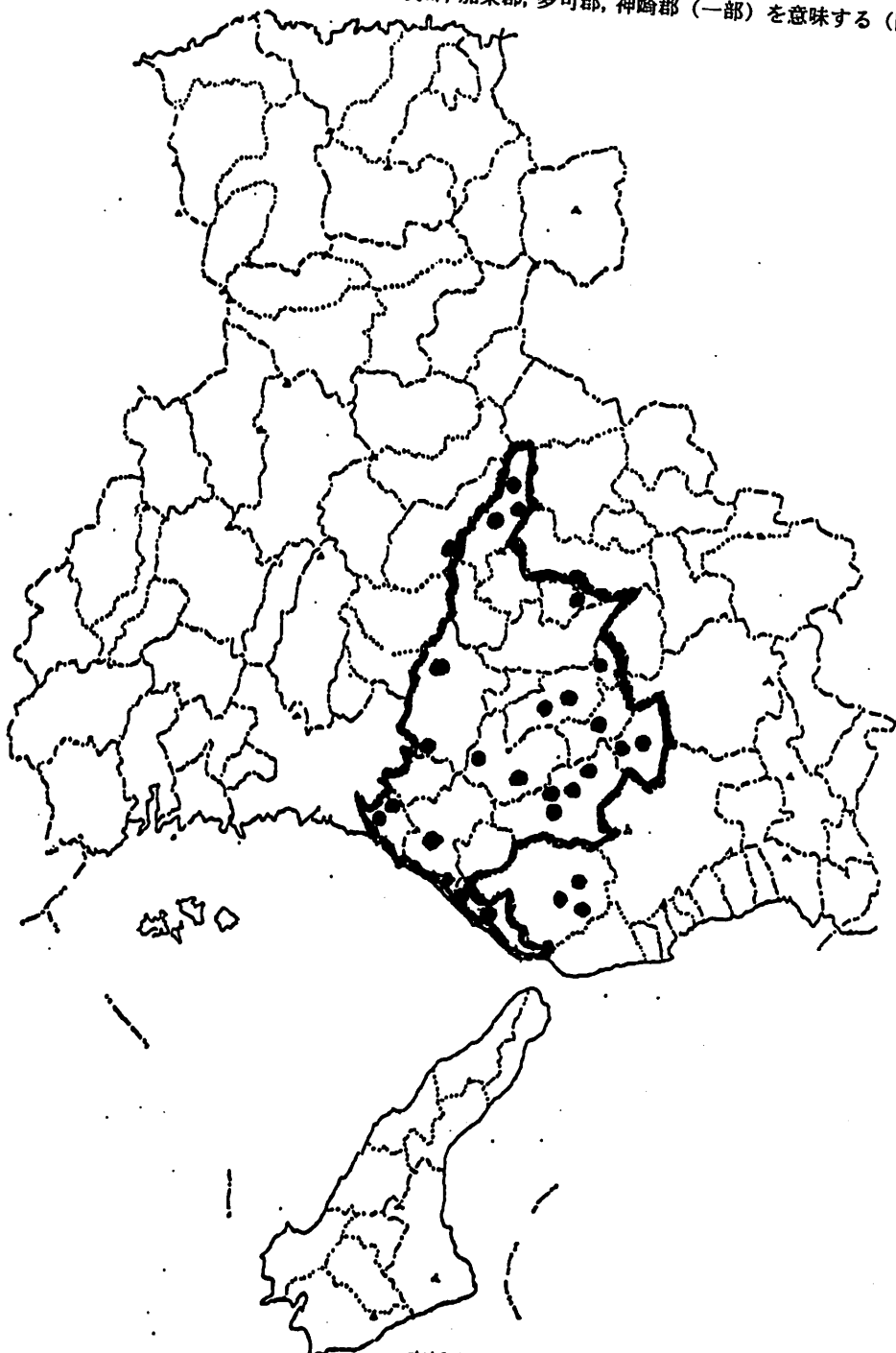
尚今回都合で分割発表させて頂くことを御了承頂きたい。

調査範囲

神戸市須磨区の境川が摂津・播磨の境であることはよく知られているが此処にのべる東播磨とは大体次の範囲と承知頂きたい。

*本報は“西播磨の甲虫相”“六甲山系を中心とした神戸並びにその近傍の甲虫相”との3部作の第1報である。兵庫県甲虫相資料・281

神戸市西部（多井畑は本来なら播磨ではないが本報では入れてある）、明石市、加古川市、高砂市、三木市、小野市、加西市、西脇市それに美憂郡、加東郡、多可郡、神崎郡（一部）を意味する（図参照）。



東播磨調査地域概略図

・調査地点（一つの地点で数回の調査を実施している。）

調査地域

今回の調査をまとめるにあたり筆者自身並びに蜂谷幸雄氏と協同調査、採集した地域と回数、年度は次の通りである。

神戸市須磨区多井畑	(1990・5回)
神戸市西区伊川谷	(1988・9回)
明石市明石公園	(1974～1979・20回)
明石市大久保町大窪	(1973・1回)
明石市江井ヶ島・林崎	(1975・1回)
加古川市加古川畔	(1975・2回)
加古川市上荘町町白沢	(1991・4回)
加西市志方町一乗寺・法華山	(1965～1976・3回)
加西市畑・加西S・A	(1974・4回)
三木市美褒川々原	(1978, 1979・7回)
三木市細川町	(1985・6回)
三木市口吉川町桃坂・東中・裾原	(1986・6回)
三木市口吉川町笹原	(1986・2回)
三木市福井地区	(1992・2回)
美褒郡吉川町	(1985, 1992・11回)
美褒郡吉川町奥山	(1986・4回)
小野市榊・山田町	(1987・7回)
小野市来住町	(1991・6回)
加東郡東条町森・岡本	(1984・7回)
加東郡社町上三草	(1987・5回)
加東郡社町下三草	(1989・4回)
加東郡社町・清水寺	(1972・1回)
神崎郡笠形山	(1966, 1975, 1976・3回)
多可郡黒田庄町白山	(1973・2回)
多可郡加美町市原	(1972・1回)
多可郡加美町鳥羽	(1972, 1975, 1976・6回)
多可郡加美町三谷	(1974～1976・11回)

以上1962～1992年の間に141回（調査地域は27地域）調査を実施している。

東播磨の甲虫相

1. 東播磨地域に生息する甲虫の種類数

今回のまとめをした結果東播磨に生息していると考えられる甲虫類は79科 1,046種であった。これらの種の目録は勿論別途作製してあるがあまりにも長文となるのでここでの発表は省略するとして科別種類数のみ次にまとめておく。括弧内の数字は兵庫県下から知られている種類である。

尚筆者の採集した標本は全部兵庫県立 人と自然の博物館に保管されている。

COLEOPTERA 甲虫目

Family Cupedoidae	ナガヒラタムシ科	1種 (2)
Family Paussidae	ヒゲフトオサムシ科	1種 (1)
Family Cicindelidae	ハンミョウ科	3種 (10)
Family Carabidae	オサムシ科	85種 (304)
Family Brachinidae	クビボソゴミムシ科	2種 (6)
Family Haliplidae	コガシラミズムシ科	4種 (5)
Family Noteridae	コツブゲンゴロウ科	2種 (2)
Family Dytiscidae	ゲンゴロウ科	11種 (39)
Family Gyrinidae	ミズスマシ科	4種 (7)
Family Hydrophilidae	ガムシ科	18種 (36)
Family Histeridae	エンマムシ科	18種 (40)
Family Leiodidae	タマキノコムシ科	5種 (16)
Family Catopidae	チビシデムシ科	2種 (18)
Family Silphidae	シデムシ科	9種 (18)
Family Scaphidiidae	デオキノコムシ科	14種 (28)
Family Staphylinidae	ハネカクシ科	44種 (283)
Family Pselaphidae	アリツカムシ科	1種 (22)
Family Lucanidae	クワガタムシ科	7種 (16)
Family Geotrupidae	センチコガネ科	3種 (3)
Family Scarabaeidae	コガネムシ科	79種 (147)

Family Eucinetidae	マルハナノミダマシ科	1種 (1)
Family Helodidae	マルハナノミ科	2種 (9)
Family Psephenidae	ヒラタドロムシ科	5種 (7)
Family Ptzlodactylidae	ナガハナノミ科	3種 (7)
Family Heteroceridae	ナガドロムシ科	1種 (1)
Family Elmidae	ヒメドロムシ科	1種 (13)
Family Buprestidae	タマムシ科	24種 (78)
Family Elateridae	コメツキムシ科	23種 (131)
Family Ometheidae	ホソホタルモドキ科	1種 (2)
Family Lampyridae	ホタル科	7種 (10)
Family Ometheidae	ホタルモドキ科	1種 (2)
Family Cantharidae	ジョウカイボン科	19種 (36)
Family Lycidae	ベニボタル科	13種 (36)
Family Dermetidae	カツオブシムシ科	10種 (16)
Family Anobiidae	シバンムシ科	4種 (18)
Family Trogostidae	コクヌスト科	1種 (5)
Family Cleridae	カツコウムシ科	3種 (17)
Family Melyridae	ジョウカイモドキ科	5種 (12)
Family Nitidulidae	ケシキスイ科	34種 (83)
Family Cybocephalidae	タマキスイ科	1種 (1)
Family Phalacridae	ヒメハナムシ科	5種 (13)
Family Sphnidae	ヒメキノコムシ科	3種 (13)
Family Cucujidae	ヒラタムシ科	5種 (14)
Family Silvanidae	ホソヒラタムシ科	4種 (11)
Family Cryptophagidae	キスイムシ科	6種 (16)
Family Helotidae	オオキスイムシ科	1種 (2)
Family Byturidae	キスイモドキ科	3種 (4)
Family Biphyllidae	ムクゲキスイムシ科	3種 (8)
Family Languriidae	コメツキモドキ科	3種 (7)
Family Erotylidae	オオキノコムシ科	11種 (33)
Family Corylophidae	ミジンムシ科	3種 (7)

Family Endomychidae	テントウダマシ科	5種 (19)
Family Coccinellidae	テントウムシ科	34種 (70)
Family Disculomidae	ミジンムシダマシ科	1種 (2)
Family Lathridiidae	ヒメマキムシ科	2種 (12)
Family Colydiidae	ホソカツムシ科	2種 (8)
Family Mycetophagidae	コキノコムシ科	3種 (12)
Family Ciidae	ツツキノコムシ科	6種 (13)
Family Tenebrionidae	ゴミムシダマシ科	39種 (93)
Family Lagriidae	ハムシダマシ科	5種 (8)
Family Alleculidae	クチキムシ科	10種 (16)
Family Tetratomidae	キノコムシダマシ科	1種 (4)
Family Salpingidae	チビキカワムシ科	3種 (6)
Family Pyrochroidae	アカハネムシ科	1種 (11)
Family Melandryidae	ナガクチキムシ科	4種 (44)
Family Scraphiidae	ハナノミダマシ科	1種 (8)
Family Mordellidae	ハナノミ科	2種 (51)
Family Meloidae	ツチハンミョウ科	3種 (6)
Family Oedemeridae	カミキリモドキ科	6種 (22)
Family Anthicidae	アリモドキ科	7種 (25)
Family Aderidae	ニセクビボソムシ科	4種 (6)
Family Cerambycidae	カミキリムシ科	95種 (291)
Family Chrysomelidae	ハムシ科	141種 (291)
Family Anthribidae	ヒゲナガゾウムシ科	18種 (43)
Family Attelabidae	オトシブミ科	22種 (54)
Family Apionidae	ホソクチゾウムシ科	6種 (19)
Family Curculionidae	ゾウムシ科	93種 (258)
Family Rhynchophoridae	オサゾウムシ科	2種 (15)
Family Scolytidae	キクイムシ科	11種 (47)

以上はじめにのべたように東播磨から記録された甲虫類は79科 1,046種でそれに対応した兵庫県産の甲虫類は79科 3,070種となる。

1992年末における筆者のまとめた兵庫県産の甲虫類は 111科 3,139種である（科数並びに種類数が異なるのは播磨地域から見つかっていない科並びに種が兵庫県には産するからである。）したがって大雑把にみて兵庫県産甲虫類の1/3の種類の子息が東播磨から見られることになる。

キイロミヤマカミキリ兵庫県下での記録

（兵庫県甲虫類相資料・282）

高橋 寿郎

キイロミヤマカミキリ *Margites (Margites) fulvidus* (Pascoe, 1858)の兵庫県下の記録は筆者の知っている限りでは神戸市本山〔関, 1941〕, 洲本市三熊山〔金田, 1978〕の2例しかなくかなり珍しいカミキリムシのように思う。



キイロミヤマカミキリ

Margites fulvidus (Pascoe, 1858)
神戸市北区藍那 1993年5月21日採集
♀ 体長19mm
U.Hachitani Photo.

1993年5月21日神戸市北区藍那でゼフィルスをねらって高い所にある栗の花を捕虫網ですくっていた蜂谷幸雄氏が身体のおそばに飛んで来たカミキリムシを採集された。それを筆者が頂き帰宅後調べたところキイロミヤマカミキリの♀（体長19mm）であった。さらに6月28日同じ藍那でこんどは栗の花を捕虫網ですくって1♀（体長17mm）が採集出来た。前回の場所とそれ程離れた所ではなかった。三熊山では燈火に来たとある。ほとんど県下での記録が知られていないようなので此処に記録しておく。

寄生植物としてスダジイ、ツブラシイがあげられている（日本産カミキリムシ検索図説, 1992）。

分布からして南方系種のようなのである。